

Eat Well, Live Well.



研究開発型スタートアップの無形資産価値の可視化に係る課題検討
ワーキンググループ(第2回)

味の素におけるスタートアップとの連携の取り組み

竹花 俊二
R&B企画部CVCグループ長
味の素株式会社

2022年11月18日

味の素株式会社

本社所在地 東京都中央区京橋一丁目15番1号

創業 1909年5月20日

代表執行役社長 藤江 太郎（ふじえ たろう）

資本金 79,863百万円

売上高 1兆1,493億円

従業員数 連結 34,198名

法人数（内、海外） 126（88）



事業発展の歩み

創業の志



昆布だしに含まれるうま味成分が、アミノ酸の一種であるグルタミン酸であることを発見。



「うま味」の発見者
池田 菊苗(東京帝国大学教授)



味の素グループ創業者
二代 鈴木 三郎助

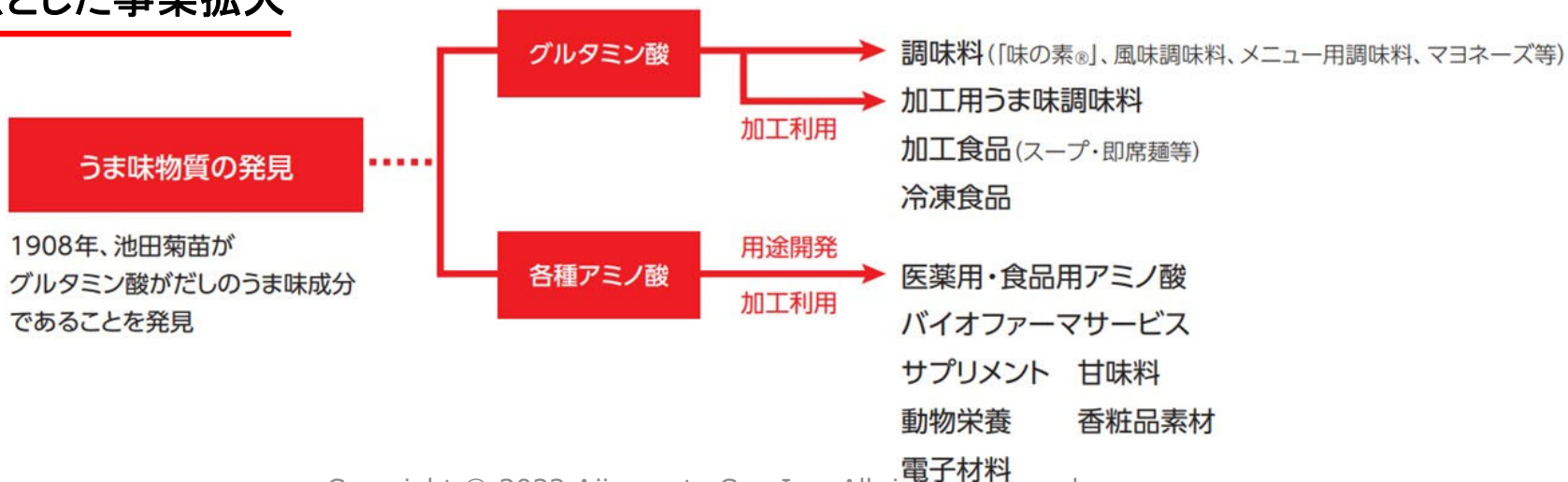


グルタミン酸を原料とした世界で初めてのうま味調味料「味の素®」を発売。

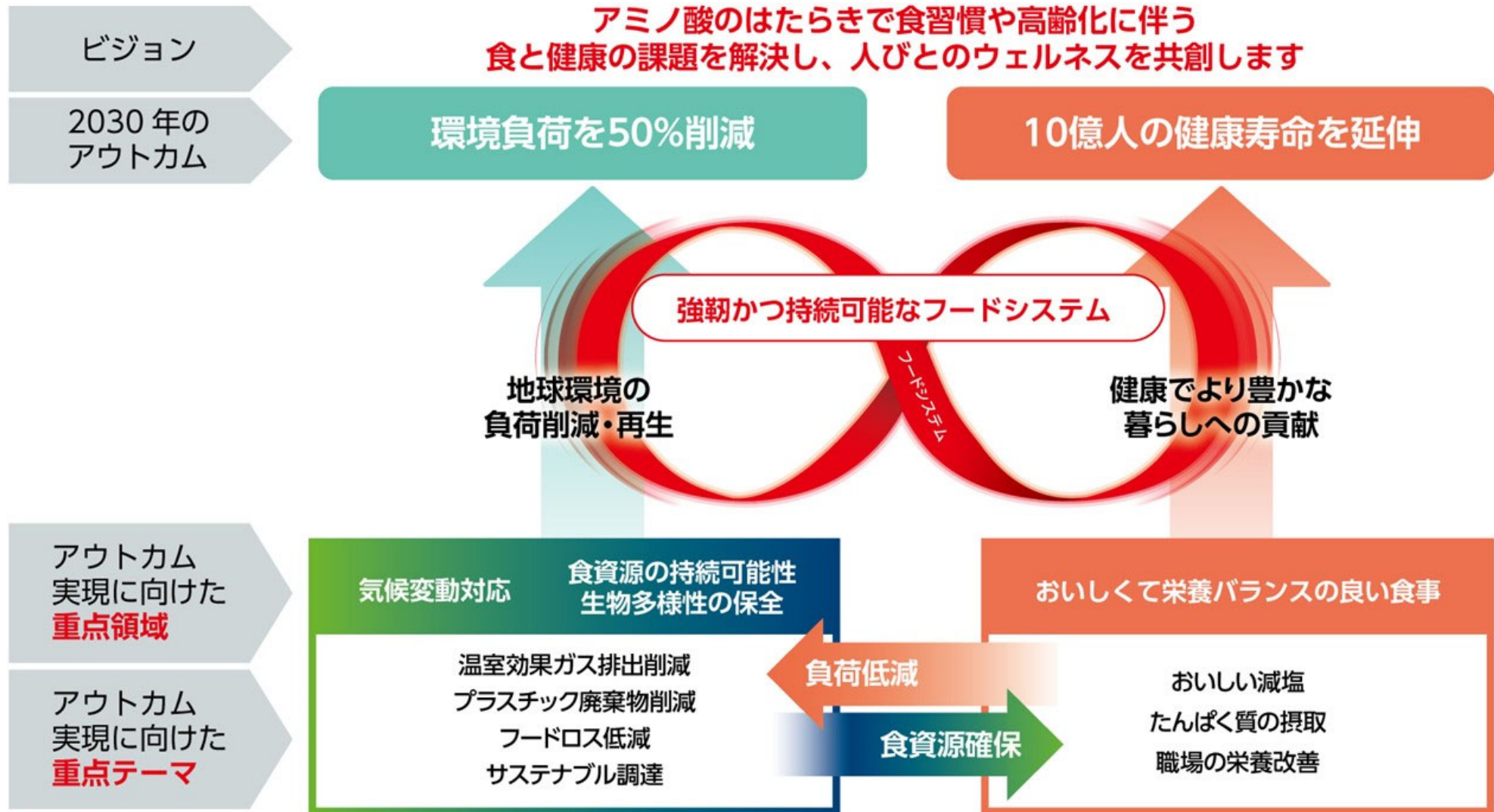


おいしく食べて健康づくり

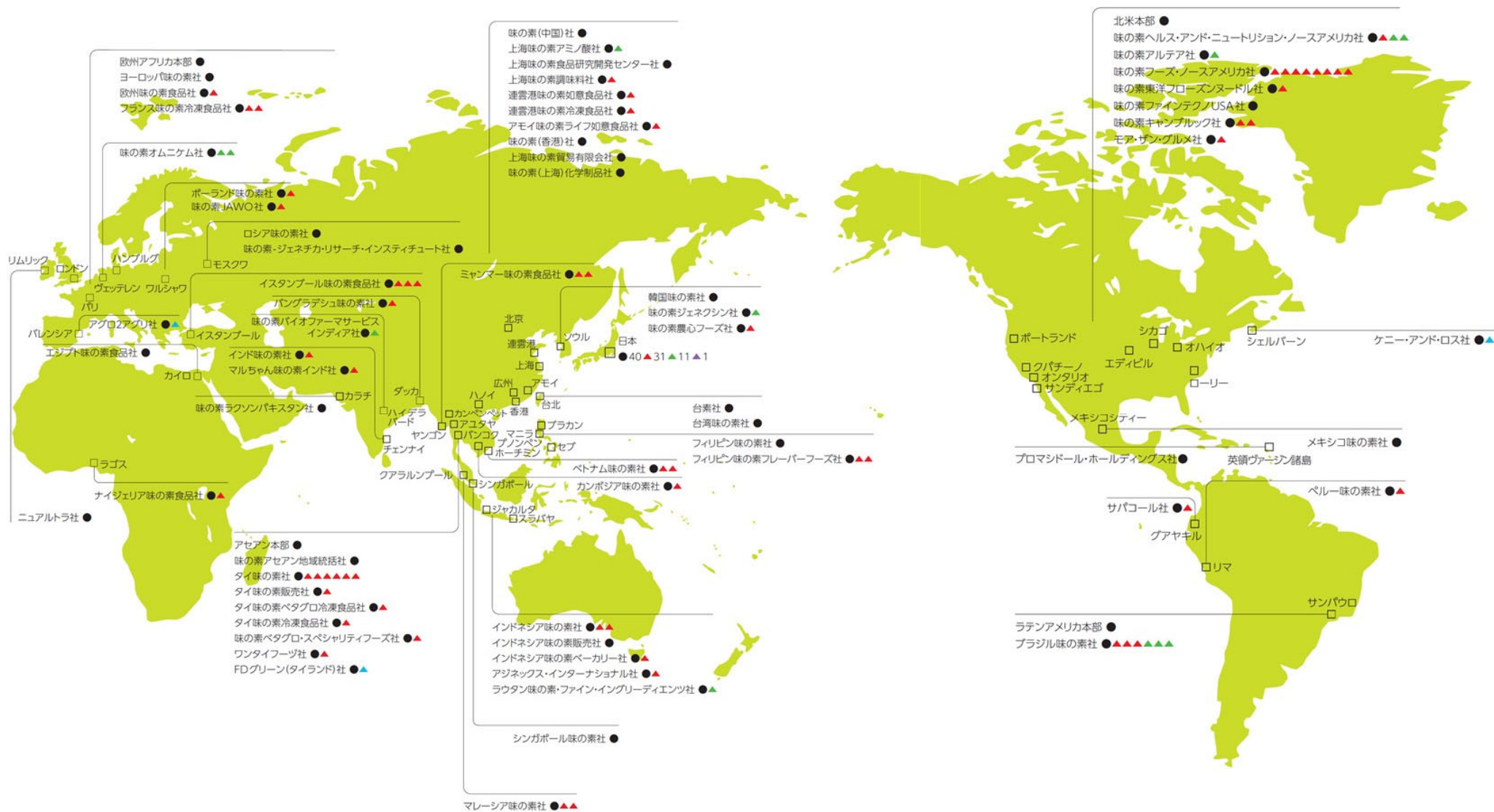
アミノ酸を起点とした事業拡大



グループビジョンとサステナビリティ



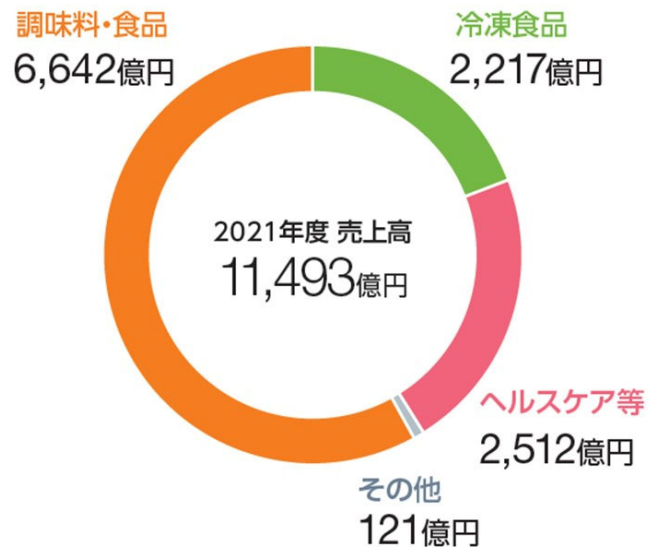
グローバル体制



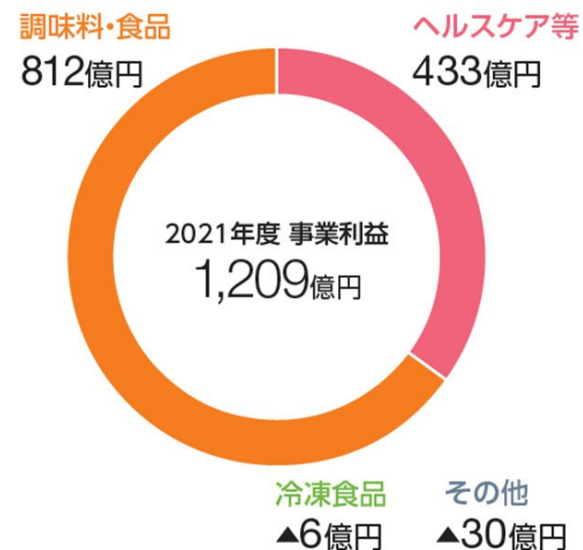


2021年度 事業別・地域別売上高・事業利益

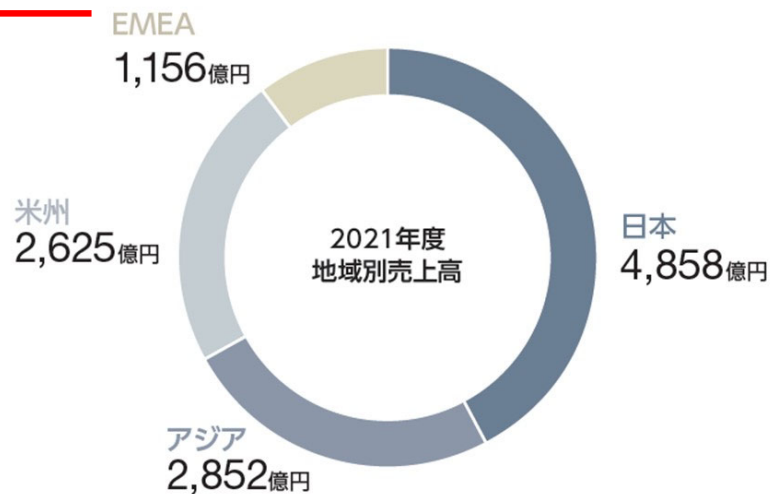
事業別売上



事業利益

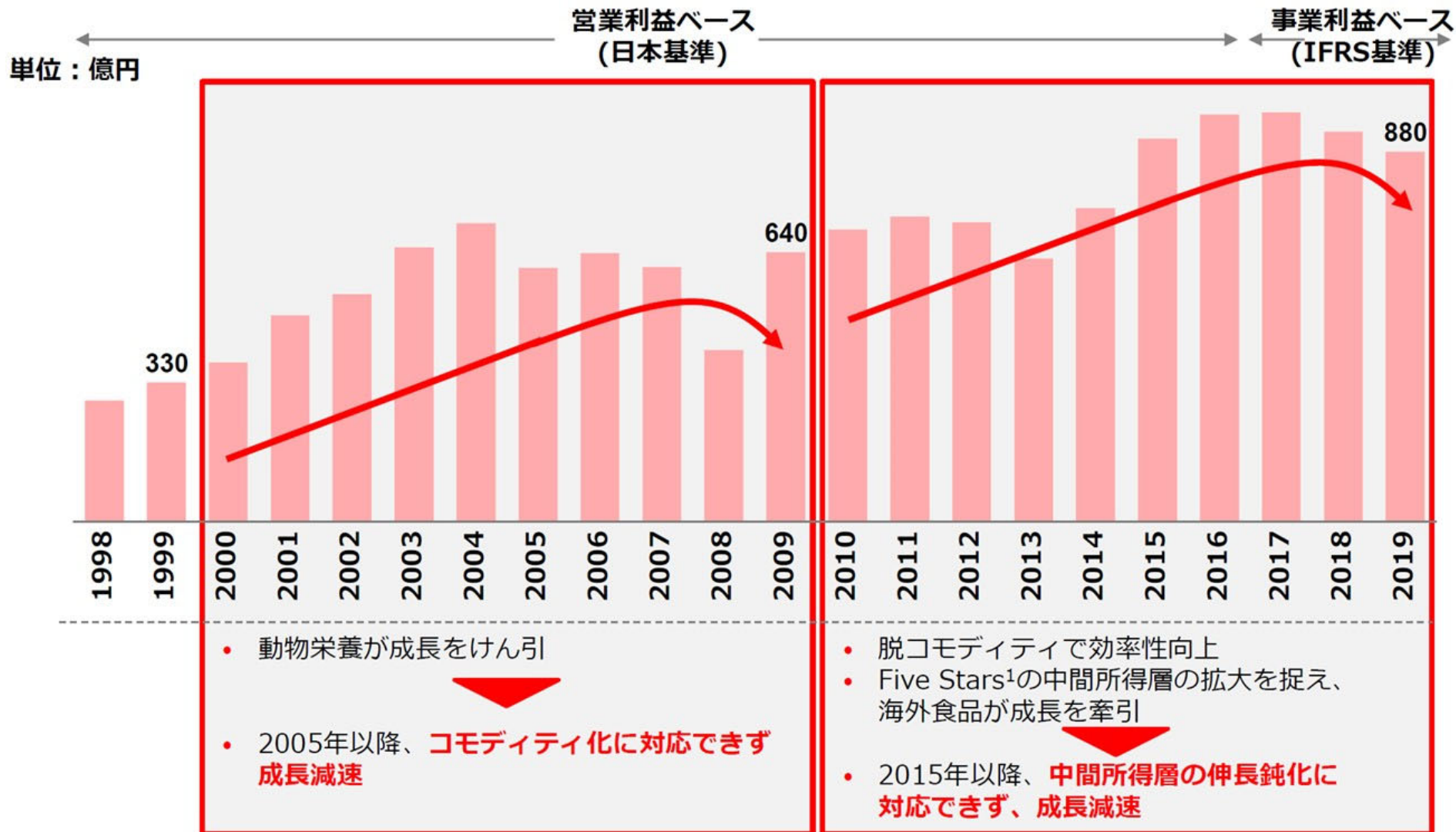


地域別売上



過去20年の振り返り

事業構造を変革し成長してきたものの、
10年単位で起きる環境変化に素早く対応できなかったことが課題



1. タイ、ブラジル、インドネシア、フィリピン、ベトナム



味の素グループのDX

20-22 | フェーズ1

23-25 | フェーズ2

2030年のゴール

DX1.0



全社

オペレーション変革

ASV（顧客・社会）を起点とした価値提供を個人、組織、全社レベルで目指し、合理的な意思決定のもと、オペレーションを推進している

DX2.0



エコシステム変革

パートナーとの協働を通じ、生活者のインサイトを踏まえた製品を、欲しい時間・場所で提供している

DX3.0



事業モデル変革
(BMX)

ASVを起点とし、クリティカル・シリアス領域の課題をアミノ酸の力を軸にして解決している

DX4.0



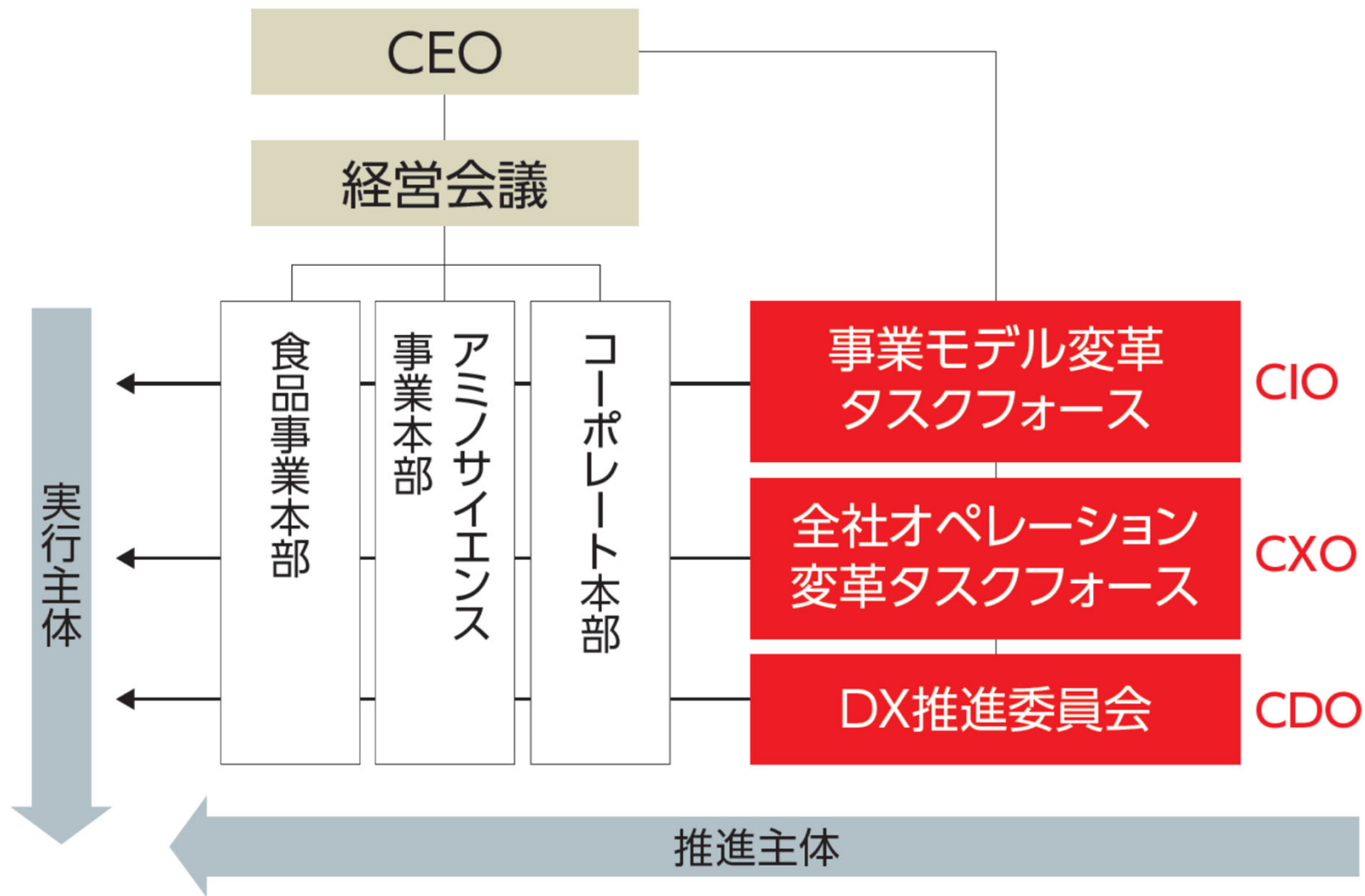
社会変革

経済価値と社会価値の両輪から業界全体の底上げをし、生活者、全業界へASVのデモンストレーションができている



一橋大ビジネススクール
名和高司教授
味の素社外取締役

DX推進体制



CVC概要

場所	味の素株式会社本社（東京）
所轄部署	R&B企画部
活動開始	2020年12月16日
投資金額目安	3000万円～2億円／件 上限5億円／社
投資委員会	委員長：味の素(株) 代表執行役副社長・CIO トップのコミットの下、迅速な意思決定を行う ※月2回開催
投資地域	日本、北米を中心にグローバル
投資ステージ	アーリー～レイター



投資領域

「食と健康の課題解決企業」実現に向けて

概要 毎日の食・生活習慣を通じ、心と体の健康(Well-Being)の実現に貢献するもの

キーワード パーソナル栄養/完全食/ヘルスケアエコシステム/フィットネス&ヘルスデータ/データマネジメントプラットフォーム/食による未病/他

概要 生活者のライフスタイルの変化、価値観の多様化に適應する新しい提案

キーワード 新デリバリーサービス/ミールキット/ゴーストキッチン/D2C(産直)/置き食/食のサブスク/食育/食の疑似体験(XR)/他

WELL-BEING

地域・地球との共生

食の伝承と新たな発見

調理の進化

概要 モノづくりから消費の場面に至るまであらゆるステークホルダーと共に地域・地球との共生に貢献するもの

キーワード 再生エネルギー/カーボンリサイクル/リジェネラティブ農業/代替タンパク質/培養肉/アップサイクルフード/トレイサビリティ/エコパッケージ/他

概要 便利で安心な調理を楽しむことを可能にする最先端の技術

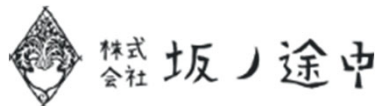
キーワード スマートキッチン/フードロボ/3Dフードプリンター/分子調理/パーソナルレシピ/他





出資先

スタートアップ出資



2017年 買収

ファンド出資



Eat Well, Live Well.

